



LD等発達障害児・者親の会

「けやき」機関紙

第124号

2021年7月発行

発行者・代表 廣瀬登士子

けやきホームページ URL [http:// keyakitokyo.web.fc2.com/](http://keyakitokyo.web.fc2.com/)

新年度ご挨拶

代表 廣瀬 登士子

コロナ禍も2年目になりました。ワクチン接種も進んできてはいますが、いまだに生活への影響は続いています。

そのような中、4月のメーリングリストを利用した総会では、無事に議案を承認していただくことができました。心より感謝申し上げます。

自粛等の生活の大きな変化は、発達障害児・者に大変なストレスや不安をもたらしました。このような時こそ、子ども達それぞれに合った過ごしやすい環境を作り、安心して働き生活していけるよう、親の会として尽力していきたいと思っております。

そのためにも、会員の皆様には会の活動や運営に関心を持っていただき、引き続きご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

今年度の活動について、大まかにお知らせいたします。

①東京都への要望書提出

コロナ禍の影響を中心に、都に要望する予定です。ご意見や情報がございましたら、どうぞお知らせください。

②東京LD親の会連絡会3会合同勉強会（テーマ：就労、仲間づくり、余暇活動等）

東京東部の親の会「ルピナス」を中心に、世田谷・「にんじん村」と「けやき」も協力して、zoomを利用した合同勉強会を計画しています。（9月～10月頃を予定）

③けやき勉強会(2022年1月開催)

「親なき後」に予想できる諸問題を、事例を挙げながら解説していただき、今後を考える上で押さえるべきポイントは何かを探りたいと思っております。

新しくZOOM回線も契約いたしました。会員間の親睦を深める集い等、例会以外でも利用できますので、ご希望がございましたら廣瀬へお知らせください。

全国LD親の会第14回総会 報告

日時：2021年6月26日 12:30~14:00

会場：大阪府立男女共同参画・青少年センター中会議室1+オンライン（ZOOM）

（1）第1号議案 2020年度事業報告⇒可決

【議案内容】

- ・環境＝コロナ対応について（教育関係、障害福祉関係、就労・雇用関係）
- ・全国LD親の会組織・体制
- ・会務＝第13回総会、理事会
- ・特定非営利活動に関わる事業
＝日本LD学会第29回大会親の会シンポジウム、第19回全国LD親の会公開フォーラム、機関紙発行等

（2）第2号議案 2020年度決算報告及び監査報告⇒可決

（3）第3号議案 2021年度役員選任⇒可決

【関東・東北ブロックから選出の役員】

- ・理事⇒神奈川「にじの会」（再任）、埼玉「麦」（新任）
- ・評議員⇒茨城「星の子」（新任）
- ・監事⇒千葉「コスモ」（再任）、山梨「いちえ会」（新任）

（4）理事会決議事項 2021年度事業計画

【LD等の発達障害に関する研究事業】

- ・日本LD学会第30回大会参加（親の会企画シンポジウム）
⇒神奈川県での開催なので、関東・東北ブロックを中心に企画する
- ・合理的配慮と基礎的環境整備についての事例検討

【LD等の発達障害に関する理解啓発事業】

- ・全国LD親の会第20回公開フォーラムの開催（オンライン）
- ・特別支援教育支援員養成ビデオ講座の開催
⇒8月～11月にかけて、録画ビデオを配信予定
- ・「発達が気になる子のモヤモヤ子育てヒントブック～親の会30年の経験から～」
⇒8月上旬発行予定（全国LD親の会設立30周年事業）、等

【LD等の発達障害のある人及び家族当の支援事業】

- ・会員研修会の開催（オンライン）
- ・親の会設立支援、等

【LD等の発達障害のある人に対する支援・制度の充実に向けた事業】

- ・2022年度予算要望書の提出
- ・各関連団体との連携、省庁に於ける検討委員会への参加、等

（TH）

第20回全国LD親の会公開フォーラム 報告

日時：2021年6月27日（日） 10：20～16：30

会場：大阪府立男女共同参画・青少年センター＋オンライン配信（ZOOMウェビナー）

テーマ：「発達障がい児の育ちと学びを支える ～家庭と教育と福祉の連携・協働に必要なこと～」

（1）基調講演 大阪大谷大学教育学部 小田浩伸先生

「多様なニーズのある子どもの理解と支援について～効果的な関係機関との連携・協働をめざして～」

多様なニーズのある子どもを理解するために、①発達障がいとその可能性のある子ども②愛着面に課題のある子ども（虐待等）③認知面・知的発達に課題がある子ども、の3つの視点を挙げ、子どもの自己肯定感の低下から二次的な問題に展開していくのを防止しつつ、「保護者支援＝子ども支援」として保護者の思いや悩みに共感し、今までの子育てを肯定した上で新しい方向に向けた話題を提供し、保護者の気付きを高める相談支援のお話や、学校内では基礎的環境整備（全ての子どもが学びやすい環境・方法の整備や工夫）と合理的配慮（その子ども個人に必要な変更・調整）で子どもが安心できる集団を作り、支援していく等のお話がありました。また、保護者、学校、医療機関、福祉機関等が効果的に連携・協働するためには、各機関の強み（できること）や弱み（できないこと）も含め、お互いの特徴をよく知っておくことがとても大事だということでした。

（2）ミニ講演会

作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士、スクールソーシャルワーカーの4職種の方に、学校教育を支援する他職種協働についてお話を伺いました。それぞれからは、①合意目標を立て、他職種チームで個別の教育支援計画を共有しながら成果を積み、次のチームに確実に繋ぐプロセスが必要、②学校が心理や福祉等の専門家と連携・分担する体制が子ども達にとって最良の環境であり、そのためには自治体も含めた体制づくりが重要、③子供たちに関わる人たちの間で、それぞれの立場や想いも含めた十分な話し合いを行う。お互いをつなぐのは「ねぎらい」である、④支援者がたくさん集まると、時として「誰かがしてくれるだろう」になることがあるので、自分の立ち位置や役割を明確にし、時には自分がリーダーシップを取るつもりで定期的に支援状況を見直す必要がある、等の意見が出ました。

（3）パネルディスカッション

ファシリテーター、全国LD代表、OT等専門家4名で、意見交換を行いました。現場では他職種の連携が見えにくい理由として、どう専門家を活用していただくかを学校に知ってもらう必要がある、学校や先生間の温度差を埋めるべきだ、個別支援計画の作成・提出期間が短く、専門家の都合がつかずに対応できない等が出ました。

（TH）

関東・東北ブロック会議報告

日時：2021年7月11日(日) 9:30~11:40 会場：オンライン(ZOOM)

参加：関東ブロック担当理事(2)、評議員(1)、各会代表(24) 合計27名

(1) 理事会決議事項

- ・第20回公開フォーラム開催・・・6/27(日)開催 参加174名
- ・特別支援教育支援員養成ビデオ講座・・・申し込み数53名(7月11日現在)

(2) 第30回日本LD学会

- ・開催日：会場12月11日(土)~12日(日) パシフィコ横浜+オンライン配信
- ・感染対策で登壇者以外は会場に入れないため、「親の会ポスター展示」「親の会懇親会」は中止
- ・親の会企画シンポジウム：「LD等発達障害児・者の家族への支援の多様なアプローチ~本人と家族を支える、包括的な支援のために~」(企画担当：関東ブロック)

(3) 関東・東北ブロックの理事・評議員・監事について

- 【問題点1】 ・現状の方法では、評議員任期(2年)のうち1年が空白がとなる
- ・監事が1名になってしまう可能性がある
- 【問題点2】 ・理事グループと評議員グループの数がアンバランス
- ・東京の3会の規模が小さく、理事を選出できるのか

※上記問題点2つについて理事より解決案を複数提示されているので、持ち帰って各会内で話し合い、次回会議(2022年2月20日)までに書面で意見を提出する。

(4) 第21回公開フォーラム(2022年)について(担当：関東・東北ブロック、埼玉「麦」)

- ・全国LD親の会総会と公開フォーラムは別の時期に行う(全国LD親の会総会：2022年6月12日、公開フォーラム：2022年11月頃を予定)
- ・テーマや登壇者などについて、意見を挙げてほしい

(5) 空白県対策

- ・理事、評議員、岩手「くぶくぶ」を中心に、方向性を考えていく

(6) 各会報告

(7) その他

- ・「青年のつどい」：第30回日本LD学会と併せて行う(担当：にじの会)
- ・ブロックメール登録者の変更：ブロックメールで今年度の登録者の問い合わせが送付されてくるので、変更手続きを行う
- ・全国LD親の会ブックレット：全国LD親の会経由で発注すれば、いつでも8掛価格で購入可能(送料必要)

(8) 次回の日程：2022年2月20日(日) 13:00~ ZOOM

担当会：千葉「コスモ」、静岡「きんもくせい」

(TH)

東京LD親の会連絡会 総会報告

日時：2021年5月16日(日) 13:30~15:30 会場：オンライン(ZOOM)

(1) 2021年度活動について

- ・要望書担当：福祉保健局⇒けやき、産業労働局⇒にんじん村、教育庁⇒ルピナス
- ・合同勉強会(就労、仲間づくり、余暇活動をテーマ、秋頃にZOOMを利用して行う)

(2) 次回会議日時：8月22日(日) 13:30~(ZOOM) (TH)

ポーレポーレ活動報告



ポーレポーレの活動は4月、5月、6月、7月全て zoom を利用したオンライン集会となりました。当日の様子をボランティアの方が以下のようにお知らせくださいました。

●2021年 4月11日(日)

今回は、メンバー6名の方の参加がありました。近況報告では、仕事の話(職場での話など)、趣味の話(テレビ(アド街、アニメ、ドラマ)、プロ野球、筋トレ、映画など)などをしました。後半、クイズもしました。「い」から始まって「ん」で終わる言葉を、3文字の単語から9文字の単語まで連想する問題です。みんなで答えを次のように見つけました。

3文字 いらん → 4文字 いんかん → 5文字 いんどじん → 6文字 いしかわけん
→ 7文字 いしんでんしん → 8文字 いしかわごえもん → 9文字 いんすびれーしょん

●2021年 5月 9日(日)

今回は、メンバー7名の方の参加がありました。近況では、仕事の話(現状について)、趣味の話(テレビ、漫画、映画、料理、ウォーキング、気分転換など)などをしました。後半、みなさんでクイズをしました。たとえば「モン」が連続して入っている果物の名前は「レモン」と答えるような、言葉の問題です。16問×2回挑戦しました。ひらめくと、気持ちがいいですね。チャット機能を使ってのクイズもやっています。

●2021年 6月13日(日)

今回は、メンバー6名の方の参加がありました。近況では、仕事の話(現状について)、趣味の話(テレビ、漫画、ストレス発散方法、おでかけなど)などをしました。生活を工夫してどう楽しむかという話も多く出されました。後半、みなさんでクイズをしました。「い」から始まって「ん」で終わる言葉を、考えました。画面共有を使って、解答するようにしました。5文字 いわてけん → 8文字 いしかわごえもん → 9文字 いっちょういったん などの回答が続き、盛り上がりました。

●2021年 7月11日(日)

今回は、オンライン活動にメンバー7名の方の参加がありました。近況では、仕事の話(現状、緊急事態宣言が明日から出ることでの変化、パソコンのスキル習得の課程を修了したことについて)、趣味の話(テレビ、ストレス発散方法、おでかけなど)、夏の予定のことなどを話しました。後半、みなさんでクイズをしました。ひとつは、「これなんて呼ぶ？」というゲームです。呼び方がいろいろあるものを見て、みんなの呼び方が同じかそうでないかなどを楽しむものです。大判焼きか今川焼きか、ばんそうこうか、バンドエイドかなどの呼び名のちがいを楽しみました。もう一つは、フジテレビの「潜在能力テスト」という番組で出題されたことのある、「す」から始まる言葉をたくさん挙げる問題でした。

「親亡き後、どういうサービスがあったらいいか」①

できれば24時間どんな時でも対応してくれる相談体制が欲しいと思っています。生活している限り、困り事はどんな時でも起こり得ます。急がない内容であれば後日相談することもできますが、その場で何とかしなくてはならないことは、本人の考えが及ばなかったりパニックになったりして、よい判断ができないかも知れません。福祉の人材不足が叫ばれている中で大変難しいとは思いますが、自分のことをよく分かってきている支援機関にいつでも連絡が取れ相談できる体制があったら、親にとっても本人にとっても、大きな安心になるのではないのでしょうか。(TH)

グレーゾーンの人の観点から、日頃思っていること。

子供は今年28才、正社員として早8年目です。地域性と、これは推測ですが、査定が影響しているのか、賃金がとんでもなく安いのです。転職を考え、ハローワークに時折行っています。最初、えっと思うような求人票を送信してきましたが、最近は現実的で本人に合っているかも、というものになってきています。また、関連の資格も取得しました。おそらく、ハローワークの職員の方のアドバイスと思われます。本人の字(かなり汚い)を見たり、まとまりに欠ける話し方等で、職員の方もプロですので、子供の状態がよく分かったのではと、推測しています。

どこでもそうですが、相談に行った先で、スタッフの方が様々な状態の人に合った対応をして頂けたら、グレーゾーンの人だけでなく、皆が生きやすい世の中になると、思います。(YA)

心豊かな健康的な一人暮らしの条件は、人と人とのつながりが保てることではないでしょうか。友達をどう作ればいいのかわからない息子は、けやきの余暇活動グループ『ポーレポーレ』が心の支えですが、親が死んでしまったら孤独に陥るのが目に見えるようです。本人がSOSを出して相談ができればいいのですが、それができれば苦労はしません。福祉サービスを使っていないので、行政の眼も届かないでしょう。『人間関係をうまく築けない人でも、安心して行くことができる居場所』や『互助等の訪問(声掛け)のしくみ』が欲しいです。自分でできることとして、ご近所さんに、こういう者が住んでいますと伝えておきたいと思います。(Y.S)

現在、息子は独居型グループホームに入居しています。電力の使い過ぎでコンセントを溶かしたり、洗濯機の排水が詰まったり、コップにカビが生えたり・・・今は支援員さんがいてくれるので都度相談していますが、一般賃貸に移った時、こうした、生活する上で発生するちょっとした事件を一緒に解決してくれる助けが欲しいです。ヘルパーも週一程度利用できるようですが、業務内容が限定的なので、時間や内容がもっと融通の利くもの方がいいです。また、親亡き後気がかりなのは、孤独です。もともと人との繋がりが持ちにくいタイプですが、寂しいと感じることはもちろんあり、そんな時ちょっと立ち寄り、話せる場所があるといいなと思います。(MT)

「親亡き後、どういうサービスがあったらいいか」②

親がいなくなった時に一人で暮らすときの支援について

父親、80歳代、母親が70歳台に突入する寸前である今、現実には直面した時に困らないように考えながら生活をしている。この年代は、どの支援も間に合わなかった経験をしてきたせいか、構えは深刻である。つまり、もしかして間に合うのではとは思えないのである。

しかし、あるとしたら、ワンストップで相談を受けてくれる市区町村の支援センターである。そこに行けば、専任のコーディネーターがいつでも生活全般にわたって、相談・支援してくれる。しくみや支援・人材育成の後回しは、もう限界であると思ってほしい。
(NK)

母親としては、定期的な見守り・訪問サービスが欲しいが、本人が希望するかどうかと考えると、積極的な利用はしないように思う。この先も家（自宅）は本人だけの城（自由な場所）として確保しておきたいだろうなと想像している。仕事帰りに立ち寄れる場所で「夕食」が提供され、本人の様子を観察してくれて、理解できないような書類等への対応にあたってくれる・・・理想的なサービスが欲しいです。まずは、本人の意見を聞くところから始めます。
(MS)

推しはかる事が苦手な子ですが、親が亡くなった後兄弟と一緒に住むのは厳しいと感じている本人に一人暮らしに必要な支援を聞いてみました。「ちょっとたまたま困り事でも相談ができる場所とお金（生活費）」と返ってきました。コロナ感染症の影響で仕事が激減し給料も減る中、家に生活費を入れる大変さを感じたゆえと思えます。しかし、仕事をしながら洗濯・掃除・食事等の日常生活の厳しさを親が我慢ができずにやってしまうので知りません。体験を通してわかる子なので支援がある場での経験と、本人側に添った兄弟との調整をして頂ける方がいれば助かると思えます。
(H)

一言で言うと「寄り添って頂けるサービス」があると良いかなと思っています。親なき後で本人がどのような生活状態になるかは全く想像ができませんので、このようなアウトと言うか固定的ではないサービスがあれば良いかと思っています。つまり、本人の将来ということと、今後何が起るのか分からない社会（世界）で複雑化するものと考えますので、どれという限定的なサービスを現状では想像することが難しいと思っています。本人に聞いても「何とかなるでしょう。」とのことです。高校生までは親が決めた路線を通すことが可能でしたが、もうそれはできないと考えていて今では本人に寄り添った形で支援をしているつもりです。

今現在できることは、本人に良かれと思ったことが将来的に本人の負担にならないようにすることだとも思っています。
(MT)

日本LD学会第30回大会（神奈川）のお知らせ

日時：2021年12月10日（金）～12日（日）

※10日は夜のプレコングレス（参加費無料のみ）

会場：原則オンライン参加（一部の企画公演のみパシフィコ横浜でライブ開催）

参加費：5,000円（親の会会員）

申し込み方法：大会HPの申し込みフォーム

「一般社団法人 日本LD学会 第30回大会（神奈川）（wdc-jp.com）」で検索してください。

※参加ご希望の方は、申込期間等の詳細を大会HPでご確認し各自でお申込みください。

「青年のつどい」について

例年全国LD親の会総会に併せて開催していましたが「青年のつどい」を、今年度は上記の日本LD学会第30回大会時に行います。コロナ禍のため、ZOOMを利用したオンラインでの横浜ビデオツアーやお食事会になる予定です。詳細が分かり次第お知らせしますので、奮ってご参加ください。

全国LD親の会「子育てブックレット」のご紹介

「発達が気になる子の子そだてもやもや解消ヒントブック～生活の基礎作り編」

編著：全国LD親の会 監修：安住ゆう子 かもがわ出版 1,650円（税込）

8月上旬発行予定

全国LD親の会が皆様にご協力いただいたアンケートを基に、主に幼児期～学童期に起こった困り事や悩みのエピソードをテーマ毎にまとめ、冊子にしました。親が子どもに合わせて工夫したことやアドバイス、反省点等も盛り込まれており、現在子育て中の親御さんたちのヒントとなるような内容です。よろしければお知り合いの方々にご紹介ください。（けやきでは会員分をまとめて購入し、皆様に配布いたします。）

編集後記



ワクチンの接種。若年層は接種をしない率が高いようですが、これは興味がないのではなくしっかりとSNS等で情報を収集してデマやフェイクニュースを含めその情報を自分なりの考えで判断していると思っています。これに加え、テレビを見ないという傾向により情報の偏りを生んでいる可能性もあると思います。若年層が取得する情報の偏りは今後も継続すると思われるので、注意が必要かもしれません。（MT）